

小学校第4学年 図画工作



布の組合せを試しながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。

小学校第4学年 図画工作 「布でえがいていい感じ」

■ 題材の目標

布に触れて感じたことから表したいことを見付け、形や色、質感を生かしながらどのように表すか考え、前学年までの経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表す。

■ 題材の概要

いろいろな種類の布を厚紙に貼って、絵に表す題材である。布を置く場所や並べ方、重ね方を試しながら表し、次第に表したいことをはっきりとさせ、自分にとっていい感じとなるよう表す。

■ 題材の指導計画（4時間）

第1時

- ・ 布を組み合わせて、どのようなイメージをもったのか話し合う。
- ・ 感じたことから表したいことを見付け、どのように表すか考える。

第2時～3時

- ・ 表したいことに合わせて、布の組合せ方や重ね方、貼り方などを工夫して絵に表す。

第4時

- ・ 友人と互いの作品を見合い、自分の見方や感じ方を広げる。

■ 学習活動の概要

いろいろな種類の布をじっくり見たり、触ったりして、形や色、質感の違いを感じ取る。布を比べながら選び、並べたり重ねたりして、「いいな」と感じる組合わせを試していく。自分のイメージを基に、表したいことを見付け、布の形や色、質感を生かしながら、どのように表していくか考える。

手や体全体を働かせて、様々な方法を試したり、やり直したりして、自分のイメージを大切にして表す。

自分や友人の作品のよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったことや考えたことを交流する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第1時）

【学習活動の場面】

布に触れて感じたことから表したいことを見付け、どのように表すかについて考える場面において、自分が感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合ったり、どのように布を組合わせていくか様々に試したりして考えた。

【子供の「深い学び」の姿】

様々な種類の布をじっくりと見たり触ったりし、好きな布を組み合わせて、どのようなイメージをもったのか話し合った。

教師「布を組み合わせてできた形や色などから、どんな感じがしましたか」

A「この布の組合わせは、お姉ちゃんとけんかしている時のもやもやした気持ちみたい」

B「違う色を、いろいろ組み合わせているからかな」

A「似たような色を組み合わせたらどんな感じになるだろう」

B「色が薄い布を組み合わせると、さわやかな感じになるね」

布の組合わせを様々に試しながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えていった。

A「少しずつずらして重ねたら、花みたいな形になったよ」

A「色を変えてみたらどんな感じになるだろう。この組合せは写真にとっておいて、他の組合せも試してみよう」

教師「いろいろ試しているね。気付いたことを教えて」

A「キラキラした布を重ねたら、光が当たっているみたい」

教師「本当だ。明るい感じだね。どんなことが表せそう？」

A「花畑でパーティーをしているイメージで表そうかな。花の周りは布を小さく切ってはろう。次の時間が楽しみ！」

【当該指導での「深い学び」】

教師は、児童が自分で表したいことを見付け、どのように表していくか考えるには、材料とじっくり関わり、自分のイメージをもつことが大切だと考えた。児童は、友人と自分のイメージについて話し合ったり、組合せを何度も試したりして、形や色などの組合せの感じに着目し、自分のイメージをもちながら、発想や構想をすることができた。

■指導上の工夫とICTの利活用

① 形や色などの組合せの感じと、自分のイメージとの関わりに気付くよう視点を示して、全体で話し合うようにする。

* カメラ機能と学習支援ソフトを活用して、画像を皆で見ながら、自分のもったイメージを話し合うことができた。

② 布を組合せながら表したいことを思い浮かべ、表現の思いが膨らんでいくように声かけをする。

* いいなと思った組合せを撮影して記録することで、新たな組合せを試すことができた。
* 撮影した画像も見ながら、どの布の組合せがよいか決め、どのように表していくか考えることができた。

【活用したソフトや機能】
カメラ機能
学習支援ソフト



学習指導要領や解説との関連

小学校学習指導要領 第2章 第7節 図画工作

第2 各学年の目標及び内容【第3学年及び第4学年】 2内容

A表現

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付けることや，表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えること。
- (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

【共通事項】

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じが分かること。
 - イ 形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。